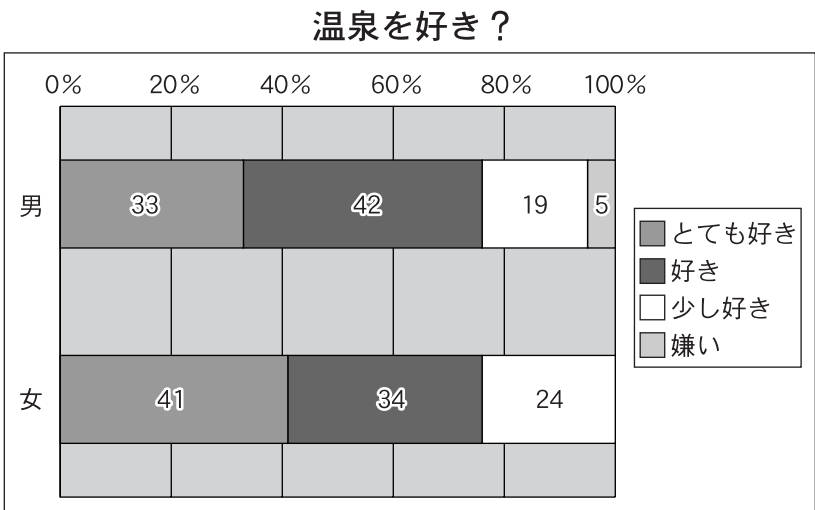


75%の中国人回答者が温泉好き 日本の温泉地への誘客に弾み

健康開発
財団調べ

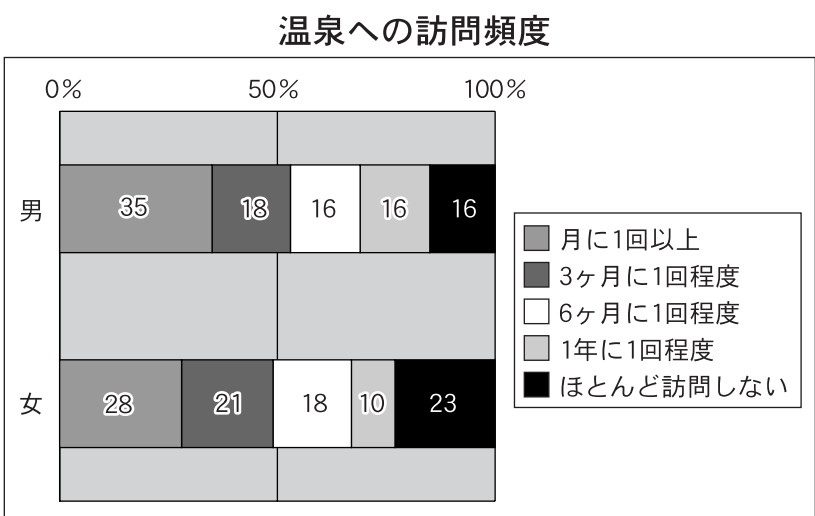
「とても好き」は男女で75%

「温泉に対する意識（好き嫌い）」では、男性で33%、女性で41%が「とても好き」と回答した。「好き」と合わせると男女とも75%程度となり、日本ほどではないものの、中国においても温泉が好まれていることが示された。



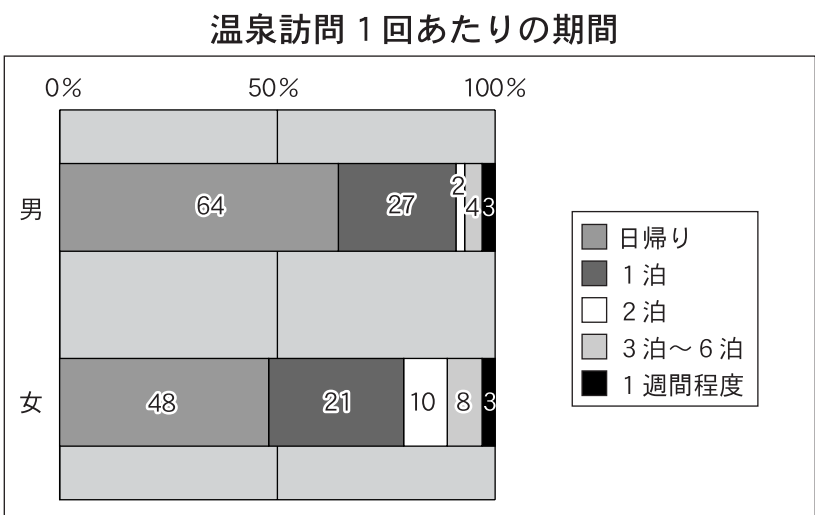
月1回の訪問が最多

「温泉への訪問頻度」は、月に1回以上が男性で35%、女性で28%、3カ月に1回以上を合わせると男女ともに約50%となり、比較的頻繁に訪れている。



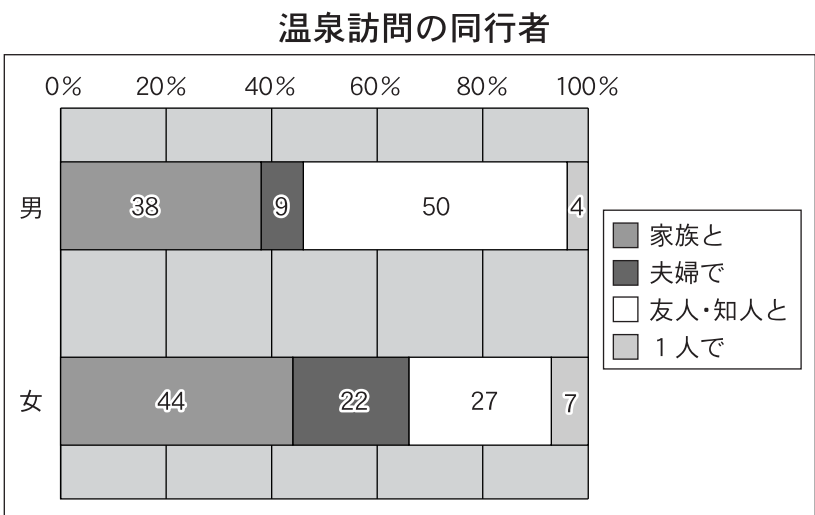
男女とも日帰り訪問が1番

「温泉訪問1回あたりの期間」は男女とも日帰りでの訪問が最も多かった。



男性で「知人・友人」、女性で「家族」

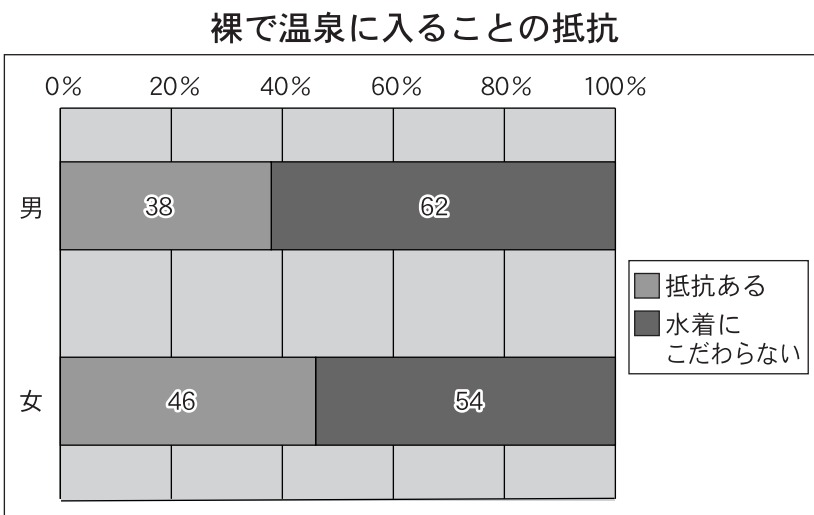
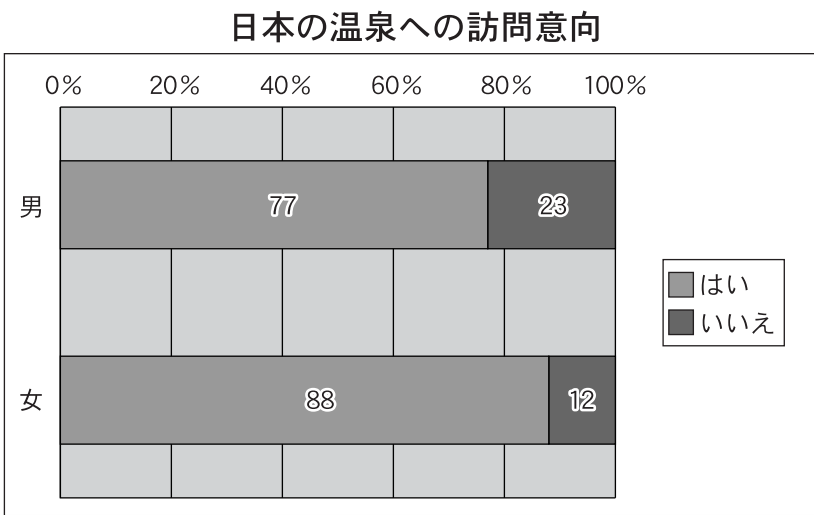
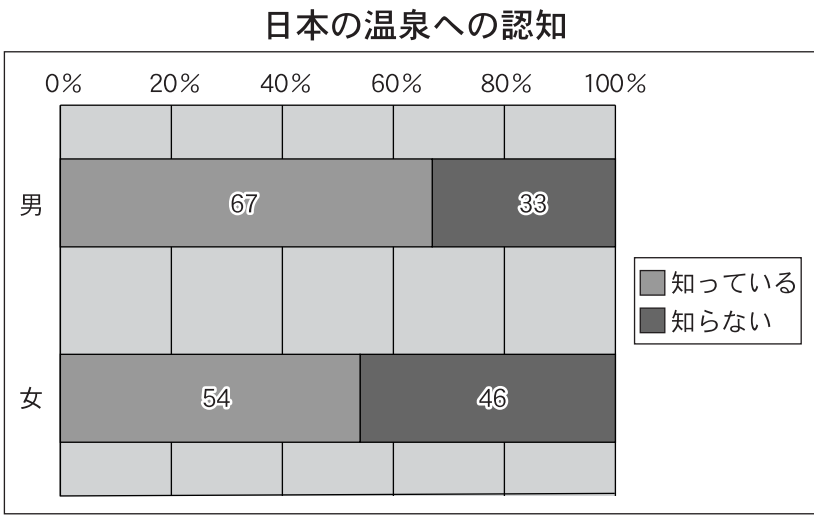
「温泉訪問の同行者」は男性で「知人・友人」が50%で最も多く、女性では「家族の44%」が最も多い結果となった。



中国・雲南省にあるリゾートスパでは、ヨガのパフォーマンスを客に披露

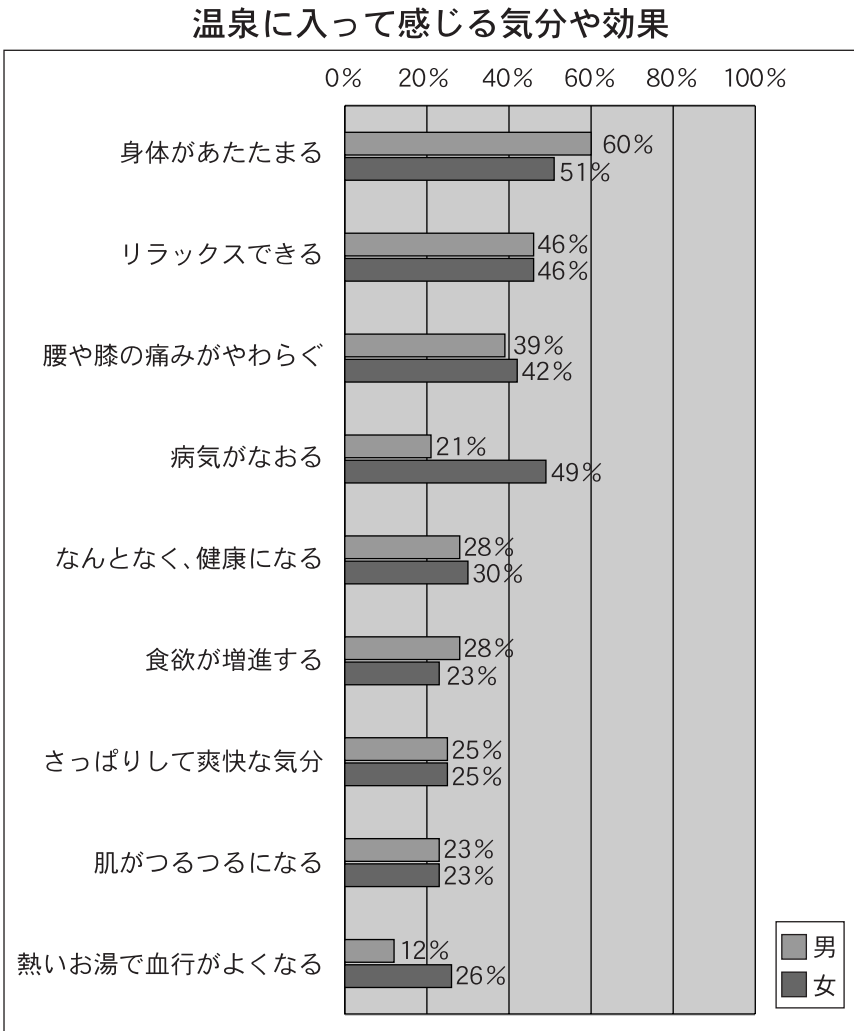
温泉の認知度高いが、裸で入浴に抵抗

「日本の温泉」については、男性で67%、女性で54%が「知っている」と回答した。訪問意向では「いつてみたい」との回答に男性77%、女性88%を占めた。一方、裸で（共同湯）に入ることに対しては、男性の38%、女性の46%で「抵抗ある」と答えた人が多く、日本人との意識の違いも鮮明となった。

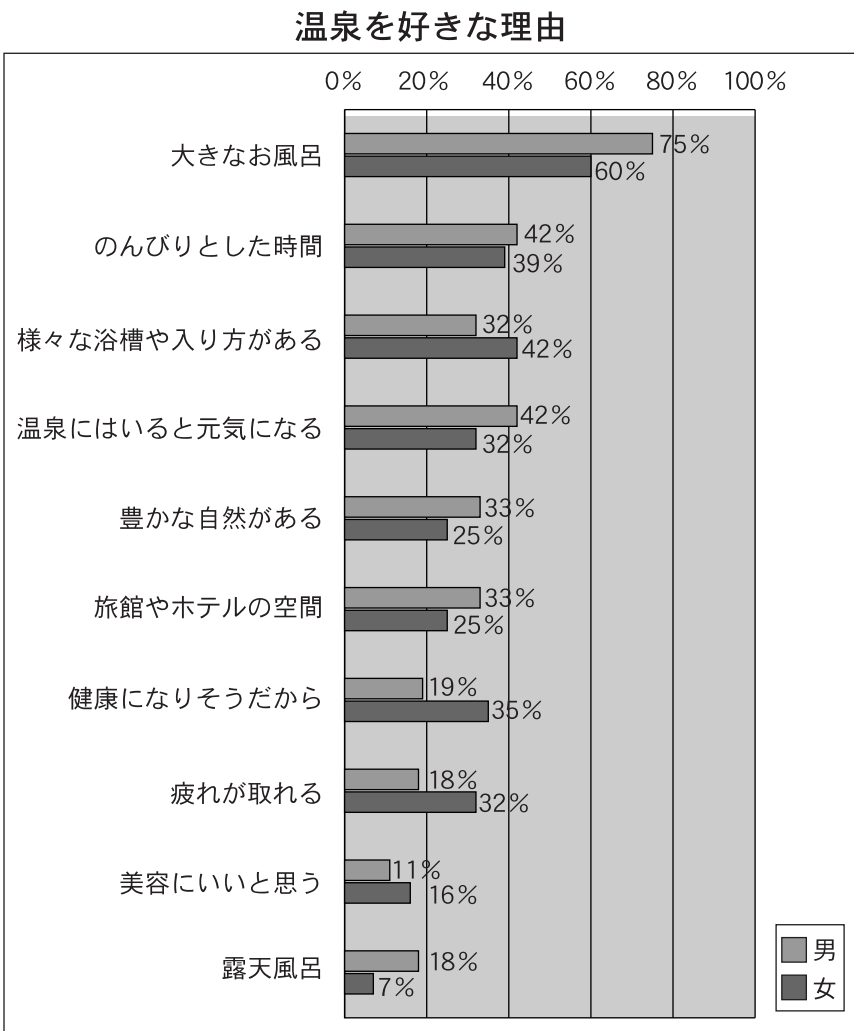


日本健康開発財団（東京都中央区、瀧田賢一理事長）は中国陝西省西安を訪問した中国人男女100人を対象に温泉と入浴習慣に関するアンケート調査を行った。その結果、温泉に対する意識では男性で33%、女性で41%が「とても好き」と回答した。同財団ではインバウンドの観点から中国人の温泉や入浴について実態を把握するとともに「日本の温泉地での誘客の手がかりの1つにもなりそうだ」と分析している。

「温泉に入って感じる効果」については、「身体が温まる」が男女ともに最多（男性60%、女性51%）、「リラックスができる」（男女46%）、「腰や肩の痛みがやわらぐ」（男性39%、女性51%）が支持された。男女を比較すると、女性で「病気が治る」の49%、「熱い湯で血行が良くなる」の26%など健康に関連すると思われる項目への支持が多く、温泉の保健的利用に関心があることを予想（同財団）。



「温泉を好きな理由」で男女を比較すると、女性で「健康になりそうだから」（35%）、「温泉にはいると疲れが取れる」（32%）など、健康に関連すると思われる項目への支持が多いのが印象的であった。また、日本人にとって大きなポイントの1つ、「露天風呂」はあまり重要でないと評価したのに興味深い傾向（同財団）と分析している。



調査期間：2007年3月1日～10日

対象：西安を訪れた中国人男女100人

- 男性57人(平均年齢33歳)
- 女性43人(平均年齢28歳)